

# 十日町市地域おこし 協力隊の取り組み

## 地域紹介と活動の概要

新潟県十日町市は人口59,145名(平成24年2月29日現在)、面積589.92km<sup>2</sup>の自治体です。日本有数の豪雪地帯で、積雪は3〜4mにもなります。しかしながら、この大雪のおかげで山の湧水が豊富であり、山菜や魚沼産コシヒカリのお米等の農産物が大変おいしいところでもあります。



雪下ろしイベント

落」と名付けられました。私の活動は大きく4つに分けられます。①飛渡地区全域での活動、②池谷集落を中心とする「十日町市地域おこし実行委員会」の運営、③行政や担当地域をまたがった地域おこし協力隊と連携した活動、④任期終了後定着するための準備です。今回は②についてご紹介します。

## 十日町市地域おこし実行委員会の運営

この十日町市には地域おこし協力隊が20名委嘱されていて、私が担当している飛渡地区は179世帯、589名の方が住んでいます。この飛渡地区は私を含む2名の隊員で担当しています。現在、私が住んでいる池谷集落は飛渡地区の中にあり、9世帯19名の方が住んでいます。池谷集落は平成16年の中越地震の影響で8世帯から6世帯に減少しましたが、平成22年に私たち家族3名が、平成23年には2名の女性が移住し、高齢化集落から脱却したことで、『奇跡の集

私が赴任する前から池谷集落とその隣の集落で、平成元年に廃村になった入山集落を中心として「十日町市地域おこし実行委員会」という任意団体が活動しており、中越地震以降の平成17年3月、ボランティアの受入れ団体として設立しました。当初は外部団体の手助けを得ながら震災復興活動を行い、震災復興が一段落すると地域おこしの活動を中心に行うようになりました。私



稲刈りイベント

は前職で勤めていた会社が復興支援をしていたNPO法人を支援しており、その縁もあって田植えのイベントに参加したのが池谷集落を訪れたきっかけでした。その後、地域おこし協力隊の制度を知り、平成22年2月に地域おこし協力隊として奥さんと息子の3人で池谷集落に引越しました。この実行委員会の運営を行うにあたって、まずは既存の取り組みのお手伝いとして、都会との交流イベントやお米の直販、東京への出張販売等を行い、更にパッケージングアップとして、無農薬・無化学肥料の有



十日町市  
地域おこし協力隊  
多田 朋孔

機栽培、家畜(牛、鶏、烏骨鶏、アイガモ)の飼育、池谷分校大改修プロジェクト、中・

都会からよそ者を過疎地に送りこむという事は非常に良いことだと思うのですが、

一方で受入れ側の行政や村落とのミスマッチで苦勞している例も少なくありません。こうした問題を解決するためにも受入れ側の意識改革にも目を向けていく必要があると考えます。

池谷集落では震災によって「強烈な危機感」を感じ、「100年先を見据えた持続可能な集落作り」を「共通の明確なビジョン」としています。このビジョンを実現すべく、昔から集落に住む方々は集落を継いでくれる仲間を心待ちにしています。

合い、安心して楽しく生活ができる状態であると考えており、この取り組みを通じて、将来に希望が持てる社会を作る事に貢献したいと考えています。

一方で短期的には生活に必要な収入と住まいを新しい移住者達に提供できるような仕組みを構築することが必要と考えます。しかし、現時点では移住者を雇用できるような資金源を捻出するのに苦勞しています。平成24年4月からNPO法人として認可される予定ですので、当面は組織としての仕組みづくりを重要テーマとして取り組んでいこうと考えています。

その結果、震災復興からの一連の活動が評価され、当実行委員会は「平成23年度地域づくり総務大臣表彰」を受賞しました。

### よそ者を 主役にする集落

池谷集落の良いところは「よそ者を主役に」しているところだと思えます。田舎は閉鎖的で封建的な風土が残っている集落もあつたりします。池谷集落はこういった閉鎖的な面も封建的な風土もなく、集落の方々が自ら「後継者を受け入れたい」と公言しています。

池谷集落も元々受入れ体制が十分整っていたのではなく、中越地震がきっかけとなって外部のボランティアとの交流を重ねながら集落の方々の意識も変化していったと聞いています。



農村六起ビジネスプランコンペティション表彰式



お米の直販

### 今後 目指すこと

①物理的に生活が成り立つ状態(ある程度の現金収入と生活に必要なもの)の循環・自給、②お互いに顔が見える関係で助け



ビジョン検討会



## 特集

### 地域活性化への新しい風

地域おこし協力隊